

2015年（平成27年）活動の記録！ ～クラブ通信より～

1月

寒さ厳しい初日の出でした

2015



最近の天気予報は、各地域のピンポイントの情報もあり、今日もバッチリとあたりました。雲の動きの予報では7:00頃はOK、でも、8:00頃に天候が悪くなり、見られるのは微妙というところでした。実際、山の稜線もはっきり見えだした6:45に赤穂御崎の港を出た時は、東の空は明るく風も波も無く、今年の初日の出も穏やかに拝めそうと沖



に出てインスタントの生姜紅茶を飲みながら待っていましたが、ちょうど出る当たりの空に雲がさしかかり、結局出てきたのは水平線ではなく雲の上から7:30を過ぎてからのことでした。この時は、西風も出始め、帰港する方向には雪雲がこっちにやって来る兆しがあり、海上は13m/s以上の風になりまわりは白波だらけで、しぶきもかかりながらの帰り道（帰港）でした。昔の人はさすがです。「行きはヨイヨイ帰りは怖い・・・」この言葉の体験を、皆さん、よくした人はいるはず。早速、赤穂の八幡さんで今年も安全な航海ができますようお祈りしました。



「あかほ」長安 家根祖父と孫 和中 藤下親子

4月

牛窓 第40回舵杯ヨットレースに参加！



4月12日のレースに「とも」「あかほ」が参加してきました。前夜祭とともに、当日のレースを楽しみました。「とも」は新オーナー上田くんのお父さんのもと、旧オーナーである猪谷さん、松尾さん、黒田さん、そして、ジュニアの蒼大郎くん、璃子さん。「あかほ」は今井さん、今栄くん、石川くん、小路さんのお父さん



ん、そして長安。舵杯は久しぶりの完走ができ、後のビールはとて旨くいただきました。

成績は クラブハンディキャップクラス とも 15位
クルージングクラス あかほ18位 でした。

今年のジュニアは6名が集まり練習しています。

4/26

昨年からの上田蒼大郎くん、小路璃子さん、そして、鳥取からやって来た木村幸希くん、塩屋の竹垣美亜・美

希姉妹、赤穂の宮内翔大くんです。

昨日、4月26日の練習で3回目ですが、ようやく良い天気恵まれ晴天の中練習ができました。また、中学1年生の美亜さん、小学3年生の美希さん2人は、早速、一人で乗って練習に参加しています。

新人3名が1人で乗れるようになると大人もOP艇を出して競い合えるので楽しみにしています。ちなみに、今度の舵杯ジュニアヨットレースに参加する蒼大郎くん、璃子さん、幸希くんの3名と競い合いましたが、負けてしまいました。次の機会には勝つぞお！！ 《長安談》

練習風景の写真は後日、楽しみに



5月

今年の忠臣蔵・舵杯ジュニアに舵社・サンテレビがやって来ました！



赤穂ヨットクラブの1または2の年間行事、舵杯ジュニアが今年も5月の9日、10日の両日に渡り、坂越ふるさと海岸でJSAF外洋内海会長、舵社編集長を迎え、山陽沿線ヨットクラブ協力のもと開催されました。

クラブの事前準備も慣れて短時間にスムーズに出来たと思いますが、毎度なかなか、大変なことです。(会長には頭を向けて寝れません?)

9日当日、朝6時30分からの行動開始で、天気は良くなかったのですが、クラブハウスにて備品の積み込み後、二手に分かれ、あかほ、恵光丸を坂越へ回航と、練習場でOP16艇、ゴムボート、アンカーその他備品を3台のトラックにて順調に移動することが出来ました。

会場設営が順調に出来上がり、参加者が来穂する頃から雨が降り出しテント内での艇抽選をしました。昼食をし、セッティングが終ると雨も上がり、風が吹いて来て方向も南寄り安定しましたので、ウエルカムレースも順調に出来ました。その後の夕食パーティーも佐山、井上両氏の活躍により盛況な盛り上がりになりました。そして、場所を変更してのアフターパーティーも当然のこと順調に盛り上がりました。

舵杯本番の10日は、6時からの行動です。夜遅くまで両氏の活躍で朝食の準備が早く出来ていたため早く行動を開始できました。艇セッティングも終え開会の挨拶も、JSAF会長、舵編集長、赤穂市長の順で行い、いよいよレースモードに突入です。簡単な艇長会議、回転の確認、コース説明の後早速海上へ、朝の風も早くから南に変わり程よい風向、風速で安定していましたのでコースも素早く完成、各参加関係者の了解を得て30分早く第1レースのスタート、続いてコースを20度西に変更、距離も短めに第2、第3レースと順調に消化しました。

第2レースのスタート50秒前ライン上で⑤艇2艇にコースの変更をさせたのを確認したのでNo.2艇に2回転のコールをしました。この時スタート40秒前のコールが聞こえたので、スタート前の回転は可能だったと思います。再三のコールでスタート後回転を始めました。

第3レースでは4レグ第1マーク運営艇でNo.2艇に対しマークタッチの、コールするもそのまま帆走を続けて再度のコールにも反応しなかった。これにより、対象艇以外の後続艇の1艇が回転をした。本部船横を通過中の対象艇に対しこれ



後続艇の1艇が回転をした。本部船横を通過中の対象艇に対しこれ

※なお、この9日の大会の様子がサンテレビ「サタデーナイト」十六日九時〜放映されます。見てね



を伝えると、手を振り、していないの表示をして下マークに向かった。レース終了後陸上にて、レース本部、大会本部、担当運営艇の3人により事実確認をし、対象艇に対して抗議を行うことにした。

レース委員長猪谷、JSAF妹尾、大会会長長安の3人で審問をする事にしていた所第1レースでのプロテストが申告されたので受理して、第1にプロテスト、第2にマークタッチ、で通告した。第1審問では、抗議者No.2艇が第1レース第2レグにおいて終始⑤で後から追いついてきたNo.15艇が近づきジャイブをした時に接触したとのこと、後続の証言を聞いても真相が解らずにいた所、マークタッチの画像を探していた運営艇が対象画面を発見した。画像には抗議艇が⑥の姿がはっきり対象艇コーチも含め確認出来た事により却下とした。第2審問を開始、対象艇が同一者だったので、引き続きマークタッチの映像を何度も確認してもらいました。こちらは、DSQの結果でした。

急いで表彰式、閉会式に移りましたが、残ったメンバーにより海岸清掃活動、艇の搬出もほぼ完了していたので、ここでも時間のロスを最小限にスムーズな行動が出来ました。

3レースとも子供たちにとって最高の風速に恵まれ、楽しいレースが出来たと思いますが、艇長会議にて、再三、回転の事に触れていたため運営のコールに耳を傾けていたなら大きな点を貰う事も無く少し残念な気がします。

審問では、双方の意見が完全に反する時の、目撃者探しをもっと効率的しないといけないと感じました。今回は、ビデオに映っていてラッキーだったと思います。

《記：レース委員長 猪谷晋一》

今回の参加者は高松、兵庫から4名、伊丹、相生から2名、姫路から1名そして赤穂からは3名の合計16名と最大人数となりました。ここ数年、参加希望者が多く、いつも調整しています。

また、9日にはサンテレビの「サタディーン」が撮影にやって来ました。その日の模擬レースの様子やレポーターの人と一緒に乗った上田くんはバッチリ放映されるはずです。

さらに、坂越での開催が8回目の今回、ようやく舵社の編集長が来て、子ども達に直接、舵杯トロフィーを手渡しました。

成績の結果は、3位 上田蒼大郎くん、10位 木村幸希くん、14位 小路璃子さん

3人とも完走できてよかったです。



《記：長安》

大人も子どもも美味しい魚料理を満喫してきました！



青い空の下、相生から「DREAM」、赤穂から「友」「あかほ」の3艇で男鹿島の中村荘へ行って来ました。参加者はジュニアとそのお父さん、湯川兄弟とお母さん、そして、家根さん夫妻とお孫さん坊や・猪谷・今井・松尾・黒田・長安・川畑ドリームチーム3名、総勢27名でした。数日前の天気予報では、あまり良くなかったのですが、そんなに訪れる船は少ないかなと思っていましたが、こちらが昼食を終えて帰る頃には、桟橋は満杯状態でした。家島は人気スポットの一つです。昼時

は正午までには入港した方が無難なようです。

さて、皆さん、この写真は何かわかりますか？赤穂御崎を出ての沖合でスナメリの集団に会いました。ちょうど、艇の上では「こ



のような天気の際はスナメリがいたらよくわかるね。」と話題にしていた時を見つけました。1頭2頭どころではなく結構泳いでいました。願えればかなうものです。

ジュニア達にとってOP艇での練習とちがってこの日は大人からガミガミ言われずのんびりできた1日だったことでしょう。ビールの存在は偉大です。お肴が美味しいからビールも旨くいただきました。



いつも思うのですが、年間3,000円払っている会員の方このような行事だけでも参加すればきっと入っててよかったなと。また、知り合いでちょっとでも海に興味のある人がいれば、皆さん、引っ張ってきましょう。

輪が広がるとその分楽しくなるはずです。

6月

スペイン人も赤穂御崎のセイリングに大喜び!

6月5日



東京で行われた世界剣道選手権に参加したスペイン選手団が赤穂へ交流に来た際、セイリングを楽しんだ。赤穂と言えば「忠臣蔵」、スポーツと言えば剣道であり、その関係で赤穂に訪問。そこで、接待側である市では試合が終わってちょっとのんびりしてもらいたいという《おもてなし》として赤穂御崎沖でのセイリングを企画し、赤穂ヨットクラブが協力となった。この日は「あかほ」と「ドリーム」の2艇でもって対応した。外国では競技大会に妻を連れて行くことは当たり前のようにこの日も一緒に乗船し、大いにセイリングを楽しんだ。たった1時間半ぐらいのおもてなしであったが、後半、少し風も上がりヨット独特の“波を切る音”も体験でき、雨を心配した天気ではあるが、結果的にはゲスト達は大喜びのセイリングとなった。

が、後半、少し風も上がりヨット独特の“波を切る音”も体験でき、雨を心配した天気ではあるが、結果的には

ゲスト達は大喜びのセイリングとなった。
やはり、赤穂はヨットが似合う街と再認識。ヨットに乗って喜んでいる人達の笑顔を見ると、こちら嬉しい行事であった。

なぎさ回廊ヨットレース2015に参加!

6月7日

前日に赤穂御崎から「あかほ」「とも」の2艇が連なって午後6時の前夜祭に向けて出港。「とも」は写真の上田さん・家



根さん、「あかほ」は長安、そして、相生で待っていた黒田さん、「アルゴナビス」の檜木さん・クルーの塩谷さんの合計6名でパーティに参加。参加料 1000 円ということもあり、食べ物は少なめだったので、辺りが暗くならないうちに早めに切り上げ、「あかほ」にてハモ鍋開始。本場の沼島ハモではなくても、地元のハモも結構美味しくいただき、檜木さんからのウイスキーも空っぽとなりクルージング気分になる。

レース当日は、Aクラスに「とも」上田、猪谷、黒田、宮内、Bクラスに「あかほ」今井、長安、家根、石川、「アルゴナビス」檜木チームが参加。コースは相生湾沖から新舞子までの行って帰って来い。西よりの風だったので、行きはスピン、帰りは上り。「あかほ」の走りとしては、下りも上りも悪くなかったが、風が無い。結局、「とも」は完走したが、「あかほ」「アルゴナビス」もタイムリミットとなった。

今回、私のカメラで撮った画像は前夜祭に向けて行く「とも」だけだったので、皆さんへの画像の報告がいまひとつになってしまった。普通は、レース中はカメラで撮る余裕はないものね。

7月

今年の市民体育祭ヨット競技は子ども達の声援で頑張れました！ 7月5日



この日は早朝まで実施できるかどうか危うい天気予報でしたが、午後からは薄日も差す日和になりました。ただ、南よりの風がもう少しあがってくれたら絶好のコンディション。マークも少々短めにして、だいたい1レースが20分から30分ぐらいで行われました。

レースは、子どもも大人も3レース、1レースごとに、子どものレースが終われば、大人に交代と、OP艇を交互に乗り換えて、全部で6レースを行いました。途中、正午には沖での昼食タイムをとり、全レース終了は2時には終えて予定よりも早くレース終了。



ジュニアは、6名中、4名の参加。2年目の上田くんが安定した走りで完全制覇。1年目の竹垣美希さんが小3にもかかわらず、3位に入賞、ゴムボートのコーチからのアドバイスを受けながらの参加でしたが、完走を目指すというよりも自分で考えての操船技術が随所に見られました。残念ながら参加出来なかった人も含めて秋の矢野杯レースが楽しみです。微風から軽風だったため、重量級の大人にとっては、大きなハンディでしたが、優勝した家根さんの後半の追い上げの走りを是非とも子ども達にも参考にしてほしいです。本部船からの子ども達の大きな声援はとても嬉しかったです。ありがとうございます！

成績はホームページに載せています



夏の合宿、台風11号の影響でおわん島も院下島も上陸できず！ 海の日

さて、ここはどこでしょう？

初日の赤穂近辺の天気予報は雨、そこで、車4台に分乗して牛窓へ海水浴場。

せっかくだからヨットハーバーへ立ち寄った時の集合写真です。ジュニア6名のまわりはおじさんばかり。

今年はお父さんとの参加がほとんどで、夜はお父さんパワーで盛り上がりました。

ジュニア達は男女3名ずつに分かれ、ふとんの中でどんな会話をしたかわかりませんが、ふだんの練習では話ができなかったことをおしゃべりしていたにちがいありません。



2日目の院下島での海水浴

相生からは「ドリーム」。赤穂からは「あかほ」「とも」「矢野丸」に分乗して出港したのですが、台風11号の余波で結構、高波があり、北播磨灘航路も過ぎた所で、方向転換し、家島へは断念しました。



ヨットは高波でも大丈夫ですが、和船「矢野丸」にとっては危険と判断。

そこで、おわん島へまわりましたが、ここもダメ！南東の風が遮る穏やかな入り江か港を求めて、最後は、矢野丸の係留場所である坂越の汐見港で、遅めのバーベキューとなりました。この2日間は、予定通りの行動とはいきませんでした。これもヨットの楽しみ方のひとつ。子ども達にとっては、船酔いでちょっとつらいこともありましたが、秋からの練習ではよきチームメイトとして参加してくれるでことでしょう。



9月

万灯祭播磨灘ヨットレースに とも あかほ 参加

9.13



4回目を迎えたこのレースも年中行事として定着しつつあります。今回の万灯祭はレース後の1週間後ということでイルミネーションの楽しみは後日となりました。

赤穂から参加した「とも」にはジュニアのお父さんでもある上田健次郎オーナー、クルーはジュニアのお父さん、宮内さんと小路さん、そして家根さんの4名が乗り、

クラスAに参加。結構の強風の中、果敢にスピムも張り、強豪の15艇中、6位は見事な成績を残しました。“あかほ”には今井、松尾、長安のメンバーにゲスト2名と高校生2名が乗り、クラスBに参加。こちら、強風の中、8艇中、6位に入り見事完走できました。赤穂の近くでのレースが減っていくのは寂しいですね。ちなみに、猪谷さんはこのレースの委員長として参加しているのは宿命かも。ジュニアのお父さんパワーに大拍手のレースでした。

秋のクルージング 高砂～和歌山～淡路島（都志）～坊勢島 あかほ アルゴナビス ドリーム参加



高砂の万灯祭（イルミネーション）に **9.19～22** 参加した“あかほ”と“アルゴナビス”翌日20日の早朝、明石海峡に向け出港。午前7時過ぎには海峡を抜ける。友が島水道では淡路島側を南下するが、友が島を通り過ぎたところで三角波に合い、高波を一発見舞う。和歌山マリーナへは午後2時には到着し、ゆっくり晩飯の下見とともにポルトヨーロ



ッパでかき氷。黒潮市場にあるバイキングレストランは手頃な値段で満腹になり満足満足。温泉はさすが連休のこともあり大賑わいの中、潮気を流す。係船代2000円は妥当なところかな。

21日（月）は、沼島と淡路島の間を通り、鳴門海峡へ。潮止まりよりも少々早く入

ったが、まあまあの揺れで済み、一路、淡路島の西側、都志へ。西宮からのヨットグループも入港して、結構、ヨットの係留が多くあり、安心できる場所に泊めるのに、時間を費やした。結果的には、テトラ運搬船に横抱きしほっとする。この港は近くに寿司や（春吉）、そして、山の中腹に温泉施設がある。



この都志には相生からその日の朝出港したドリームも合流し、賑やかな夕食となる。

22日（火）は、そのまま、帰るのは早いので、坊勢島の乱菊すしで昼食。鱧の湯引きに、ちらし寿司とちょっと贅沢をしました。この日は、潮がひいていたため、岸壁の下側がくぼんでいるため、横抱きはあきらめ、ちょうど漁から帰ってきた漁船に横抱きできたことはラッキーでした。快き漁師さんに感謝。



10月

第11回赤穂わくわく矢野杯ヨットレース

10.25



風もきつくなり沈すると寒くなって来る季節になる前にシーズンオフとなる赤穂ヨットクラブのジュニアは、毎年、恒例のレースで締めくくっています。それが、この矢野誠杯です。歴代優勝したプレートも10枚となりました。そこで、今年は1枚目の裏側に11人目の優勝者の名前の刻印が刻まれました。名前は上田蒼大郎でした。今年1年間の練習においていつもトップで、このレースにおいても実力の走りを見せてくれました。ただ、第3レースでは、なかなか上田くんを追い越せなかった木村くんがようやく一矢を報いることができました。この日、参加できなかった竹垣姉妹は残念でしたが、今年は、赤穂のメンバー7名のうち5名によるし

ースで競い合い、最後の第3レースでは、肉薄した場面も見られ、なかなかのレースとなりました。子ども達はレースとなれば艇長会議も真剣に大人の話聞いています。

さて、来年の春には7名の子ども達の姿は見られるかな。そのためにも、もう早速、練習できる準備をしなくてはいけない。

〈レース結果〉

	1レース	2レース	3レース	得点	順位
上田蒼太郎	1	1	2	4	1
木村 幸希	2	2	1	5	2
小路 璃子	3	3	3	9	3
谷 嘉礼	4	4	4	12	4
宮内 翔大	5	DNF	5	16	5

